

勿凝学問 392

保険としての年金の賢い活用法

2014年12月3日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

夏、7月のある日、次のような原稿依頼が届く。

> 閲覧している層（F2層）が、非常に関心を持っているテーマですので・・・

注）F2とはマーケティング用語で35～49歳の女性の意味

ということで、次を書く。

保険としての年金の賢い活用法

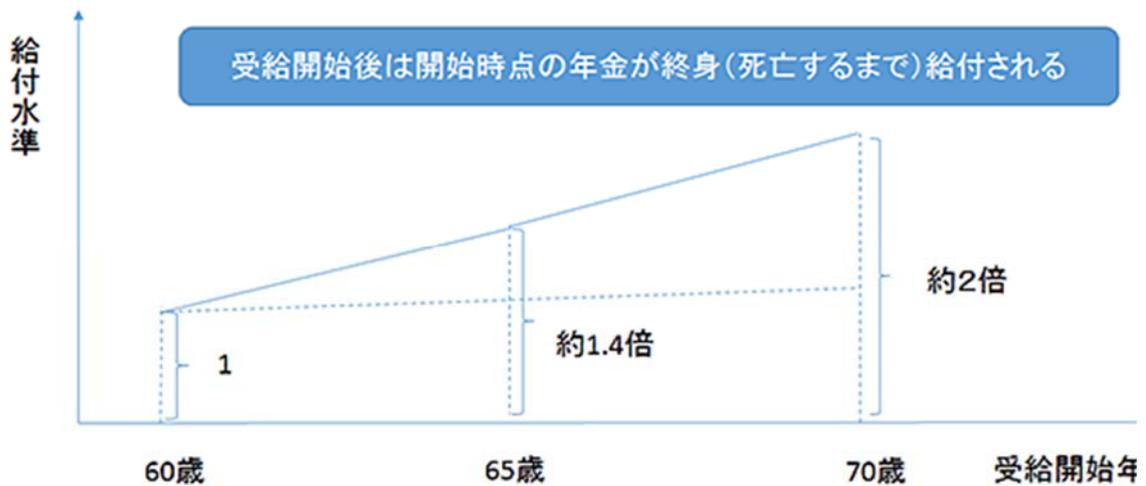
2014.11.06

社会保障って難しいですよ。社会保障の中には、医療保険とか年金、これも保険なので年金保険と呼んでおきますが、こうした制度がいくつもあります。このうち、みなさんご存じの医療保険は、保険証を持って病院に行けば、かかった医療費の3割の自己負担とか、子どもならば、70歳以上ならば云々というあの制度です。付け加えておきますと、医療保険には高額療養費制度というのもあります。高額な医療費の場合には特別に医療保険から支払ってくれるという制度で、ややこしい話を端折ってしまうと、たとえば100万円の医療費がかかった場合の自己負担は約9万円、500万円では13万円くらいですみます——詳しくは [Web](#) で・・・。

医療保険については、賢い使い方についてそんなに難しい話はありません。でも年金保険となると。。。

最近、新聞や雑誌でよく目にする言葉があります。それは、繰り上げ受給と繰り下げ受給。繰り上げとは65歳よりも年金受給を早めること、繰り下げとは遅らせることです。でも、そういう面倒な言葉は、ここではすっかり忘れてしましましょう。この国の年金は、60歳から70歳までの間で、受給開始年齢を自由に選ぶことができる受給開始年齢自由選択制だと覚えておけば十分です。

日本の年金は受給開始年齢自由選択制



注) マクロ経済スライドというようなややこしい話があるのですが、それは無視しています。70歳開始の年金は60歳開始の約2倍とおおまかに理解しておけば、65歳基準の繰り上げ減額率は0.5%/月、繰り下げ増額率は0.7%/月なども覚えなくて大丈夫です。

なんだか信じられないような話ですけれど、これは読売新聞で社説を書かれている記者で、社会保険労務士の資格も持つ林真奈美さんが言い始めたことですから、間違いなしの話です！

今では基礎年金も、それに上乗せされている厚生年金も、実質的には60歳から70歳までの受給開始年齢自由選択制になっています。そこで問われるのは、いくつから年金を受給するのが賢い選択か？

少しこのあたりの事情を話しておきますと、この国では2009年から2010年にかけて、年金の危機を煽る本が立て続けに出版されました。その内容は、問題の多いトンデモ本の類だったのですが、これらの本の煽りに週刊誌やテレビのワイドショーがのって、どうせ破綻する年金、早くもらっておいた方が断然お得！というキャンペーンが張られました。

年金事務所には、年金を65歳よりも早く受給する繰り上げの問い合わせが殺到する始末。その時、まじめに勉強をしてきた記者たちは新聞や雑誌で、そんなキャンペーンにのってはいけませんよという記事を書いてくれていたのですが、こうした事情を知らない人たちは、何が何だか分からないですよね。

だって、考えてもみてください。年金というのは、将来いくらかかるかよく分からない老後の生活費を賄うための保険なんです。一人ひとりは何れくらい長生きするか分からないし、何十年も先の遠い将来に人並みの生活をするのにいくら必要なのかも、本当のところは誰にも分かりません。こうしたリスクは、長生きリスクと呼ばれることもありまして、長寿社会日本で生きる私たちみんなが抱えている、とても深刻なリスクだと思いま

す。

そうした長生きリスクに対して、日本という一つの長屋？に住んでいる人みんなで、困ったときはお互い様よお！助け合ってやっていこう、というのが国民皆年金という政策なわけです。

そうであるのに、給付として受け取ることができるのは払った保険料の何倍だという話や、年金は破綻するだとかのバカバカしい話を一部の論者たちが流行らせてしまったわけですし、売らんかなの週刊誌や見てもらわんかなのワイドショーが、そうした話に大いのにのってしまいました。人って、怖い不幸な話は見たがるんですよ。

でも、そうしたキャンペーンにのせられて、たとえば 60 歳から受給しはじめた人が長生きしてしまうと、目も当てられないくらいにかわいそうなことになります。もし、余命幾ばくと宣告されていない人が、当面の生活費を工面する方法があるのならば、可能な限り遅く受け取りはじめることをお勧めします。70 歳で受給しはじめると、60 歳で受給できる年金額の約 2 倍になり、それを亡くなるまで受け取ることができるわけです。そしてもしですよ、もし、70 歳での受給開始を決めている時に 69 歳で亡くなってしまったとしても、別に良いではないですか。少なくともそれまでは、自分は 70 歳以降も生活に困ることがないという安心感は得られていると思いますし、保険というのはそういう安心を与えるのが大きな役割なわけです。今 52 歳の私は、未だ年金を一円も受け取っていませんけれど、将来、年金があるという事実に基づいたライフプランを立てています。

それは当然ですよ。付け加えれば、親が年金を得ていたために、親の生活費をさほど心配しなくてもすんでいました（笑）。親が無年金だったら子どもはちょっと辛いかもしれませんが。ということは、別の角度からみれば、私の親の扶養を私以外の多くの人たちが協力してくれていたことにもなります。それが公的年金というものなのだろうと思います。おっとそれから、私の両親は数年前に他界しましたが、今もせっせと、年金制度に保険料を払って今の高齢者の扶養に協力しています。まっ、そんなものでしょう、公的年金は助け合いだし、保険ですし、それに万が一長生きしたら（笑）協力した分に応じた見返りもあるようですし。

年金は保険であるということを理解すれば、おのずと賢い活用とはどういうことかが分かるようになります。年金を貯蓄や株のような利回りを競い合う金融商品と同じに考えて、おかしなキャンペーンにのせられてしまった人は、もし長生きしたときに大変な後悔をしてしまうでしょう。だからこそ、ちゃんとした記者たちは、年金破綻論に端を発した繰り上げ受給キャンペーンを諫める記事を書いてくれたわけなんです。

今年になって「繰り下げ受給」という言葉が新聞に多く出るようになりました。それは、6 月に当時の田村厚労大臣が、今の 70 歳までの繰り下げ受給を 75 歳まで延長したいと発言したからです。

ここで一つ問題。田村さんの発言を一部のメディアでは、やはり年金の財政は危ないの

だと報道していましたが、みなさんはどう評価されますか？